

ライオン学校 2013 年度活動報告

【活動内容】

特に問題を抱えている C 家の姉弟（姉：K、弟：T）への個別対応と学校訪問を中心に支援を行い、それと並行して集団遊び・家庭訪問・夏休みの宿題支援・旅行手伝い等を通じた、その他の子どもたちの見守りを行った。

【日時及び詳細】

2月24日（個別対応）

特に問題を抱えている C 家へ家庭訪問を行った。この家庭の父親と新学期に向けて話をする予定であったが、会うことができなかった。しかし K、T と学校のことについて話す、家の掃除、勉強を教える等はできた。

3月2~3日（遊び・家庭訪問・個別対応）

風邪が流行っており、体調不良で参加できなかった子どもたちもいたが、集まった子どもたちを対象に遊び支援を行った。また遊び支援に来られなかった子どもたちに対しては家庭訪問を行い、保護者から学校や家庭での様子を聞いた。

4月20日（中学校授業参観・遊び）

この回の支援の日程は、地域の中学校の授業参観日と重なったため、支援スタッフは学校での子どもたちの様子を見に行った。そこで特に問題を抱えている K の新しい担任と話をすることができ、今後協力していきたい旨を伝えることができた。

4月20~21日（旅行手伝い）

2011年12月に万石浦で公演をしてくださった市川富美雄一座の方から名古屋での公演に招待され、子どもたちの中から代表者1名が名古屋へ、ライオン学校の子どもたちが書いた手紙を渡しに行った。その後、代表の子どもは神奈川に一泊し、翌日東京観光を楽しんだ。

5月18日（小学校運動会見学・遊び）

地域の小学校の運動会が行われていたため、スタッフは小学生たちの学校での様子を見るために運動会を参観した。翌日は、遊び支援を行った。

6月16日（個別対応）

C 家の姉弟が通う中学校と協力して、この姉弟の支援体制を作っていくために、宮城県の教職員組合の教員と話をし、中学校とつなげてもらう約束をした。

7月15日（個別対応）

C 家の姉弟が通う中学校の校長、K の担任と話をし、協力してこの姉弟を支援していくことを決めた。

8月17~18日（夏休み宿題勉強会・遊び）

毎年恒例になりつつある夏休みの宿題支援を行った。中学生は長時間集中して宿題に取り組めた。一方、小学生はほとんどの子どもが宿題を終わらせていたため、遊びをしたがった。しかしスタッフは4名しかいなかったため、小学生と十分に遊んであげられなかった。

10月19~20日（遊び・個別対応）

ライオン学校の教員が結婚するため、その結婚式で流すメッセージビデオの撮影と手紙を書いた。

20日は集まった子どもたち全員で外遊びをすることができた。

12月14~15日 (遊び・個別対応)

地域の方々が企画した焼きそばづくりのイベントに子どもたちと参加した。翌日は雪が降っていてとても寒かったため、外遊びはできなかったが、子どもたちは屋内でも工夫して楽しく遊ぶことができた。

【活動場所】

万石ささえあい拠点センター、万石浦中学校

【人員】

対象者数：延べ85名、従事者人数：延べ37名

対象者登録数20名、従事者登録数21名

【反省】

宮城県石巻市万石浦地区の被災した子どもたちに対して遊びと学びの支援を行う「ライオン学校」の活動は2013年度で2年目を迎えた。1年目は、どうすれば子どもたちが自らの抱える課題を乗り越えられるのかを子どもと共に考え、彼らの成長をサポートすることを目的に活動を行った。そのために定期的に万石浦へ足を運び、子どもたちと共に過ごす中で、子どもの変化を見逃さないよう努めてきた。2年目の今年度において、ほとんどの子どもたちの環境は、安定してきている。問題が起こったとしても、子ども自身の力で、または周囲の大人の手を借りてすぐに解決されるようになってきた。しかし多くの子どもたちの状況が良くなって一方、C家の姉弟の状況は厳しく、この姉弟に関してはまだ支援が必要であると考えられた。そこで今年度の活動はC家の姉弟、特に姉の支援を重点的に行い、並行してこれまで通りの遊び支援を行うことで、他の子どもたちの様子も見守った。

C家の姉Kに関しては、彼女が通う中学校の校長や担任と話し合い、協力しながら彼女とその保護者を支えていく体制をつくることができた。姉Kと日常的な関わりを持つ教師や保護者は、一生懸命であるが故に衝突やすれ違いを起こしてしまっていた。その際に、私たちが両者の間に入ることによって、問題解決のサポートをすることができたと考えている。また弟Tに関しては、彼が中学に進学し部活動を始めたことで、日中はライオン学校の遊び支援に来られなくなってしまった。しかし、遊びの活動が終わった後、夜に弟Tと会う習慣ができ、以前よりもゆっくり話をし、勉強を見ることができるようになった。他の子どもたちに関しては、あまりトラブルがなく、ただ遊ぶだけの支援になってしまうことが多かった。ただトラブルが全くないわけではなく、子どもや保護者から相談されることもあったので、定期的な遊び支援を行い、話をする機会を持ち続けることはこれからも必要であると考えている。

その他、反省点として挙げられるのは、活動資金調達のために助成金申請をしたが、すべて落選してしまったことである。

【2015年度の課題】

ライオン学校スタッフは2015年度から進学・就職などで定期的な支援を継続できるか不確実なため、ライオン学校の活動は来年度をもって終了する予定である。そのため、来年度は支援の終了を意識して活動を行っていきたいと考えている。

現在重点的に支援を行っているC家の姉は、2015年度から全寮制の特別支援学校への入学を希望して

いる。そのため来年度は彼女が希望の学校に入学できるよう、勉強面でのサポートに加え、彼女が抱えている生活面の課題を解決し、自立した生活を送れるように支援していく予定である。他の子どもたちに関しては、ただ遊ぶだけでなく子どもたちが目標をもって何かを成し遂げられるような活動を行いたいと考えている。具体的には子どもたちが、これまで支援に関わってきた Ed.ベンチャースタッフを招待し、お話をする宿泊学習を行いたい。そのためにはまず資金が必要なので、これからも助成金の申請と寄付金の呼びかけを積極的に行っていく。